2025年２月期　第３四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2025年１月10日

上 場 会 社 名　株式会社東天紅　　上場取引所　東
コ ー ド 番 号　8181　　URL　https://www.totenko.co.jp
代　　表　　者　(役職名) 代表取締役社長　(氏名) 小泉　和久
問合せ先責任者　(役職名) 取締役管理部長　(氏名) 佐藤　昇　(TEL) 03(3828)6272
配当支払開始予定日　―
決算補足説明資料作成の有無　：無
決算説明会開催の有無　：無

(百万円未満切捨て)

１．2025年２月期第３四半期の業績（2024年３月１日～2024年11月30日）

（１）経営成績(累計)　(％表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年２月期第３四半期	3,337	△1.4	317	25.0	297	31.4	277	―
2024年２月期第３四半期	3,384	31.3	254	―	226	―	△293	―

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年２月期第３四半期	108.21	―
2024年２月期第３四半期	△114.29	―

（２）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年２月期第３四半期	10,820	6,524	60.3
2024年２月期	10,514	6,206	59.0

(参考) 自己資本　2025年２月期第３四半期　6,524百万円　2024年２月期　6,206百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年２月期	―	0.00	―	0.00	0.00
2025年２月期	―	0.00	―		
2025年２月期(予想)				―	―

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無
　期末の配当につきましては、今後、業績の動向を勘案して決定してまいります。

３．2025年２月期の業績予想（2024年３月１日～2025年２月28日）

(％表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,600	△1.7	470	10.6	450	15.5	430	―	167.42

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　無

※　注記事項

（１）四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用　：　無

（２）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　：　無

②　①以外の会計方針の変更　：　無

③　会計上の見積りの変更　：　無

④　修正再表示　：　無

（３）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2025年２月期３Ｑ	2,572,871株	2024年２月期	2,572,871株
②　期末自己株式数	2025年２月期３Ｑ	4,611株	2024年２月期	4,577株
③　期中平均株式数（四半期累計）	2025年２月期３Ｑ	2,568,263株	2024年２月期３Ｑ	2,568,327株

※　添付される四半期財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー　：　無

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料Ｐ３「（４）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）経営成績に関する説明 …… 2
（２）財政状態に関する説明 …… 2
（３）継続企業の前提に関する重要事象等 …… 3
（４）業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．四半期財務諸表及び主な注記 …… 4
（１）四半期貸借対照表 …… 4
（２）四半期損益計算書 …… 6
（３）四半期財務諸表に関する注記事項 …… 7
（継続企業の前提に関する注記） …… 7
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 7
（セグメント情報等） …… 7
（キャッシュ・フロー計算書に関する注記） …… 8
（重要な後発事象） …… 8

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する説明

当第３四半期累計期間におけるわが国経済は、堅調な企業収益を背景に所得環境が改善する中で、設備投資や生産に持直しの動きがみられるなど緩やかな回復基調で推移いたしました。

一方で、外食産業ではインバウンド効果もあり活況を呈しておりますが資源価格や物価の上昇、慢性的な人手不足の問題も継続しており不透明な状況が続いております。

そのような状況下、当社は、引き続き企業価値の向上、業績改善、また安定して収益を創出し続けられる経営基盤の確立に向け取り組んでまいりました。

まず、営業面におきましては、安定的な売上を確保するために、主要部門である宴会・グリルの受注を更に強化することを目指し、セールスの実施及びＷＥＢを活用した営業を継続しました。

新規予約を積極的に獲得するために個々のお客様に対してきめ細やかなプランの提案等を実施するなど、ＷＥＢでの効果的な発信を継続した結果、予約受注が伸び上野店を中心に売上は堅調に推移しました。

婚礼部門では会場内覧体制の強化や新規顧客をご招待する内覧試食会等の施策を図ることにより成約率を上げることが出来ました。

更に料理・飾花・演出商品等の単価を上げる為、お勧めを徹底した結果、売上増に繋がりました。

宴会部門、婚礼部門に関しては忘年会・新年会以降も予約受注が順調であることから、当社の増収を牽引する柱となっており、本部と店舗の応援体制の強化等による人件費を中心とした経費コントロールの徹底が増益の柱となっております。

また働き方改革の一環として休業日の設定、有給取得の推進等、労働環境の改善を継続して実施してまいりました。

このような取り組みの結果、宴会、婚礼部門は順調に推移し既存店舗売上高では増加しましたが、前期の店舗閉鎖の影響もあり当第３四半期累計期間の売上高としては前年を下回る結果となりました。

しかしながら、経費面では損益分岐点の引下げを目的とする大型店舗閉鎖を昨年度までに実施した効果等により固定費は大幅圧縮となり、昨年度を大きく上回る利益を確保することとなりました。

結果として、当第３四半期累計期間の売上高は、既存店前年比では8.3％増加となりましたが前年同四半期比1.4％減の33億3,788万円、営業利益は前年25.0％増の3億1,765万円（前年同四半期は営業利益2億5,422万円）、経常利益は前年31.4％増の2億9,774万円（前年同四半期は経常利益2億2,665万円）、四半期純利益は2億7,790万円（前年同四半期は四半期純損失2億9,354万円）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

①飲食業

飲食業におきましては、上記の理由により、売上高は前年同四半期比1.5％減の31億9,468万円、営業利益は前年同四半期比33.9%増の２億5,857万円（前年同四半期は営業利益１億9,314万円）となりました。

②賃貸業

賃貸業におきましては、前年同期並みで推移しており売上高は前年同四半期比2.4％増の１億4,320万円、営業利益は前年同四半期比3.3％減の5,908万円（前年同四半期は営業利益6,107万円）となりました。

（２）財政状態に関する説明

当第３四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末に比べ３億554万円増加いたしました。

これは主に、企業や団体等によるお集まり及びご家族の食事会等のご利用が増加し、現金及び預金並びに売掛金が３億6,630万円増加したことなどにより、流動資産が３億7,128万円増加、固定資産が減価償却費の計上などにより6,574万円減少したことなどによります。

負債は、前事業年度末に比べ1,207万円減少いたしました。

これは主に、借入金の返済によるものであります。

純資産は、前事業年度末に比べ３億1,761万円増加いたしました。

これは主に、四半期純利益２億7,790万円の計上などによります。

（３）継続企業の前提に関する重要事象等

当第３四半期累計期間において、主要の宴会部門が好調に推移したことも有り、売上高が一定程度回復し、通期の営業利益及び当期損益は黒字が見込まれるものの、前事業年度までは継続して当期純損失を計上しており、不確実な状況が続いております。さらに、当第３四半期会計期間末の流動負債に計上している借入金残高2,942百万円は手元流動資金1,461百万円に比して高い水準にあることから、第３四半期会計期間末時点においては継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

しかしながら、注記事項（重要な後発事象）に記載のとおり、2024年12月30日に当座借越契約の実行残高1,600百万円を長期借入金として借り換えを実行しております。

また、取引先金融機関に対して継続的な資金支援を要請していることから、重要な資金繰りの懸念はありません。従って、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断しております。

なお、当該事象又は状況の解消のため、コスト圧縮の対策を実行すると共に、ＥＣ事業の主力商品「おうちで東天紅」では四季折々の旬の食材を味わえるメニューなど商品開発に力を入れ、販路拡大に取り組んでおります。また、原油などのエネルギー資源や原材料価格の高騰を受け、メニューの見直しを行い、原価率の改善に取り組み、様々なＳＮＳを使用し、独自のプランを多くのお客様に向け訴求を行っております。

（４）業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、2024年10月７日に公表いたしました「第２四半期業績予想及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」からの変更はありません。

２．四半期財務諸表及び主な注記

（１）四半期貸借対照表

（単位：千円）

	前事業年度 (2024年２月29日)	当第３四半期会計期間 (2024年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,221,362	1,461,211
売掛金	272,192	398,650
商品及び製品	5,763	10,040
原材料及び貯蔵品	54,104	52,634
前払費用	33,161	36,971
その他	3,210	1,573
貸倒引当金	△300	△300
流動資産合計	1,589,493	1,960,781
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	3,500,736	3,347,480
土地	4,553,539	4,553,539
その他（純額）	72,241	87,327
有形固定資産合計	8,126,517	7,988,347
無形固定資産	258	13,015
投資その他の資産		
投資有価証券	170,704	230,461
差入保証金	369,790	366,026
その他	258,201	261,875
投資その他の資産合計	798,695	858,362
固定資産合計	8,925,471	8,859,725
資産合計	10,514,964	10,820,506
負債の部		
流動負債		
買掛金	95,858	137,181
短期借入金	2,992,500	2,942,950
未払法人税等	13,500	9,000
賞与引当金	26,800	29,800
その他	368,604	383,332
流動負債合計	3,497,263	3,502,263
固定負債		
長期借入金	200,000	180,800
長期未払金	67,544	67,544
繰延税金負債	32,138	52,156
再評価に係る繰延税金負債	62,805	62,805
退職給付引当金	425,025	407,129
その他	23,305	23,305
固定負債合計	810,819	793,741
負債合計	4,308,082	4,296,005

（単位：千円）

	前事業年度 (2024年２月29日)	当第３四半期会計期間 (2024年11月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	50,000	50,000
資本剰余金	9,083,780	7,691,465
利益剰余金	△1,392,314	277,908
自己株式	△10,175	△10,203
株主資本合計	7,731,289	8,009,170
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	63,796	103,535
土地再評価差額金	△1,588,204	△1,588,204
評価・換算差額等合計	△1,524,407	△1,484,669
純資産合計	6,206,882	6,524,501
負債純資産合計	10,514,964	10,820,506

（２）四半期損益計算書

第３四半期累計期間

（単位：千円）

	前第３四半期累計期間 （自　2023年３月１日 至　2023年11月30日）	当第３四半期累計期間 （自　2024年３月１日 至　2024年11月30日）
売上高	3,384,500	3,337,887
売上原価	1,381,570	1,340,810
売上総利益	2,002,929	1,997,077
販売費及び一般管理費	1,748,709	1,679,419
営業利益	254,220	317,658
営業外収益		
受取利息	3	99
受取配当金	2,587	3,348
その他	5,723	1,263
営業外収益合計	8,315	4,712
営業外費用		
支払利息	18,926	23,451
設備休止費用	13,832	－
その他	3,121	1,172
営業外費用合計	35,880	24,623
経常利益	226,654	297,746
特別損失		
固定資産除却損	3,072	11,552
減損損失	518,333	－
店舗閉鎖損失	22,921	－
特別損失合計	544,328	11,552
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失（△）	△317,673	286,194
法人税、住民税及び事業税	10,121	8,285
法人税等調整額	△34,249	－
法人税等合計	△24,128	8,285
四半期純利益又は四半期純損失（△）	△293,544	277,908

（３）四半期財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

前第３四半期累計期間(自　2023年３月１日　至　2023年11月30日)

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

（単位：千円）

	報告セグメント		
	飲食業	賃貸業	計
売上高			
宴会	1,809,379	―	1,809,379
婚礼	607,563	―	607,563
グリル	751,515	―	751,515
売店他	68,424	―	68,424
顧客との契約から生じる収益	3,236,882	―	3,236,882
その他の収益（注１）	7,704	139,913	147,617
外部顧客への売上高	3,244,586	139,913	3,384,500
セグメント間の内部売上高又は振替高	―	―	―
計	3,244,586	139,913	3,384,500
セグメント利益（注２）	193,147	61,072	254,220

（注）１．その他の収益は、「リース取引に関する会計基準」（企業会計基準第13号）に基づく不動産賃貸収入であります。

２．セグメント利益の合計額は、四半期損益計算書の営業利益と一致しております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

「飲食業」セグメントにおいて、店舗の閉店及び遊休不動産の譲渡が決定されたことに関連して、減損損失を特別損失に計上しております。なお、当該減損損失計上額は518,333千円であります。

当第３四半期累計期間(自　2024年３月１日　至　2024年11月30日)

１.報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント		
	飲食業	賃貸業	計
売上高			
宴会	1,781,085	―	1,781,085
婚礼	665,031	―	665,031
グリル	678,101	―	678,101
売店他	62,761	―	62,761
顧客との契約から生じる収益	3,186,979	―	3,186,979
その他の収益（注１）	7,704	143,203	150,907
外部顧客への売上高	3,194,683	143,203	3,337,887
セグメント間の内部売上高又は振替高	―	―	―
計	3,194,683	143,203	3,337,887
セグメント利益（注２）	258,577	59,080	317,658

(注)　１.その他の収益は、「リース取引に関する会計基準」（企業会計基準第13号）に基づく不動産賃貸収入であります。

２.セグメント利益の合計額は、四半期損益計算書の営業利益と一致しております。

２.報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第３四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第３四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第３四半期累計期間 (自　2023年３月１日 至　2023年11月30日)	当第３四半期累計期間 (自　2024年３月１日 至　2024年11月30日)
減価償却費	175,279千円	200,674千円

(重要な後発事象)

重要な資金の借り換え

当社は、2024年12月30日付で、当座借越契約の実行残高1,600百万円を長期借入金として借り換えをいたしました。

１.借り換えの経緯

新型コロナウイルス感染症拡大及びその影響の長期化に備え、財務基盤のより一層の安定化を図ることを目的として当座借越契約を締結しておりましたが、売上高及び損益が回復傾向に有り、手元資金も安定的に確保できており、実行に至りました。

２.長期借入金の概要

①借入先　　　：　株式会社みずほ銀行

②借入額　　　：　1,600百万円

③契約期間　　：　2024年12月30日より５年間

④借入金利　　：　固定金利

⑤担保提供資産の有無　　：　有